

政治思想学会 2005 年度  
第12回研究会プログラム(終了)

---

期日 2005 年 5 月 28 日、29 日  
会場 日本大学法学部本館  
統一テーマ「近代日本と西洋政治思想」

5月28日(土)

受付:9:15～ (本館2階)

\* 学会費納入は会場では受け付けません。

\* 懇親会にご出席の方は、受付の際に参加費 6,000 円(大学院生 5,000 円)をお支払いください。

第一セッション「ウエーバー(研究)と近代日本」(本館3階大講堂) 10:00—12:30

報告:

野口雅弘(早稲田大学非常勤講師)「日本のウエーバー受容における『普遍』の問題」

W・シュベントカー(大阪大学)「戦後日本のウエーバー研究と欧米政治思想」

討論:杉山光信(明治大学)

司会:柳父圀近(東北大学)

12:30—14:00 理事会 (本館2階第一会議室)

第二セッション「イギリス政治思想と日本」(本館3階大講堂) 14:30—17:00

報告:

関谷 昇(千葉大学)「日本における近代社会契約説研究の展開とその意義」

坂本達哉(慶応大学)「私悪は公益?——日本におけるイギリス思想史研究の一特質——」

討論:苅部 直(東京大学)

司会:半澤孝麿(東京都立大学名誉教授)

総会 (本館3階大講堂) 17:10—17:40

懇親会 (東京グリーンホテル) 18:00—20:00

千代田区三崎町1-1-16 tel.03-3295-4151

会費 6,000 円(院生会員 5,000 円)

5月29日(日)

自由論題セッション 9:30—11:20

分科会(A) (本館3階大講堂)

報告:

萩原 稔 「北一輝の革命論——中国革命の影響を手がかりに」

石川公彌子 「〈道念〉の政治思想——折口信夫における〈批判〉の方法」

司会:小原薫(國學院大學)

分科会(B) (本館3階131教室)

報告:

- 松元雅和「ウォルツァー〈複合的平等論〉の再検討  
——多元主義とシティズンシップの社会哲学構想を巡って」
- 森達也「アイザイア・バーリンが捉える自由の理念  
——現代リベラリズム論におけるその位置づけをめぐって」
- 松尾哲也「レオ・シュトラウスの政治理解の特徴とその意義  
——カール・シュミット批判から古代ギリシャ政治哲学へ」

司会: 添谷育志(明治学院大学)

分科会(C) (本館3階134教室)

報告:

- 仁井田崇「19世紀アメリカにおけるアナーキズム  
——Lysander Spooner と Benjamin R. Tucker をめぐって」
- 佐藤高尚「アダム・スミスの国際秩序観——国際法論を中心に」

司会: 押村高(青山学院大学)

特別講演: John Keane (University of Westminster) (本館3階大講堂)

“Why Democracy? The Need for Fresh Thinking about an Old Ideal”

司会: 千葉真(国際基督教大学) 11:30—12:30

12:30—13:30 理事会(本館2階第一会議室)

第三セッション「政治科学の成立——日本とアメリカ」(本館3階大講堂) 14:00—16:30

報告:

- 都築勉(信州大学)「丸山真男の日本政治研究」
- 苅田真司(國學院大學)「何のための”科学”か?  
——1920年代におけるアメリカ政治科学の再構成」

討論: 田口富久治(立命館大学)

司会: 寺島俊穂(関西大学)